一般社団法人長岡青年会議所　2017 年度　理事長所信（案）

2017 年度　理事長予定者
大石　慶太郎

Vanguard
先駆けの精神と不変の志が生み出す新たな価値の創造

1954 年に設立した長岡青年会議所は、60 年余の歴史を積み重ねてきました。その運動は時流とともに変化をしてきましたが、一貫して地域の発展に寄与してきたものであり、先輩諸兄への感謝を表するとともに、これから先の未来への我々の責任を受け止めて運動を続けてまいります。

はじめに

我々は何を行わなければならないのか。

私は、人は行動の本質的な使命を知った時に、行動に意味を見出し、活力を得ることができると考えます。私たち日本人はこれまでの歴史においても、これから先の未来を築くための使命を知り、今日の世界に認められる日本を作り上げてきました。そしてまた同じく、数多くの地域で使命を知り、地域の発展を成し遂げてきました。

我々の故郷長岡市は新潟県内第二の人口を抱える都市であり、上越新幹線や北陸自動車道などの交通インフラを備え、また日本一の河川延長を持つ信濃川をはじめとし、近年では平成の大合併を経て日本海にも面した豊かな自然に囲まれた都市であります。さらに歴史を振り返れば火焔土器に代表される縄文時代からの遺跡を有するように、古くから人々が住み暮らし、越後長岡藩の時代を経て長い歴史を持っている都市であります。

今、我々の住み暮らす長岡の状況を見るに、人口減少社会への突入、同時進行する少子化と高齢化、激動する世界情勢とも絡まり合い複雑に変化する経済状況、東京への一極集中が進む一方での地方都市としての生き残りなど、世界の中で日本が課題先進国とも言われるように、長岡も多くの課題に直面しています。しかし課題があること自体は決して今現在に特有のものではなく、いつの時代にも課題はあり、我々の先輩諸兄はその時代の課題に向き合い、長岡の発展のために運動を進めてきました。

愛する故郷長岡で育てられてきた我々は何をしなければならないのか。その設立趣意書の一節に以下のように記されています。

> 青年がその青年による独自の立場に於いて互いに啓発陶冶し、自己を練磨すると共に進んで現実周囲の諸問題に関与して社会に奉仕さらに友愛の精神を通じて全世界と提携せんとするものであります

長岡に生きる青年経済人が集結した組織である我々は、今まさに青年としての使命を知り、責任世代として未来を描き、故郷のために第一線に立って新たな価値を生み出し、夢あふれる長岡を創造していかなければなりません。

日本人として、長岡人として

世界最古の 2677 年の歴史を持つ日本には培われてきた和の心があります。日本人はあらゆるもののうえに生かされていることに感謝し、相手のことを思いやり、個人として生きながらも調和を重んじるという、世界から賞賛される美しい精神性を備えています。日本人として生きる我々はこの和の心を基軸に、誰しもがこの国に生まれてきてよかったと思えるように、この国のために何をしなければならないのか模索し行動する必要があります。

また、故郷長岡は幕末から明治、そして現代に至るまで、日本のため長岡のためにと活躍した多くの人材を輩出してきました。多くの人材を生み出した背景には「百俵の米も食えばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」で知られる米百俵の精神が文化として根付いていることがあります。今日よりも明日のこと、そして未来に生きる子供たちのことを考え、自らを高めながらも周りの人々のためにも生きるといった和の精神とともに独立した個人として生きる精神を併せ持っていると言えます。

自らを知ろうとするときは他者を知り、他者から見た自分を知る必要があります。同様に、長岡を知るためには他者の視点を取り入れ、自らも他者の視点を持って長岡を眺めるべきであります。

今再び日本人として、長岡人としての心を大切に、日本人、長岡人としての生き方、行き方を多様な視点から探求し、故郷長岡の発展のために我々は運動を進めます。

青年会議所会員として

青年会議所には使命があります。青年会議所の会員である我々は何か事業を行うに当たっては、新規の事業であるか、あるいは継続事業であるかを問わず、根本にある使命を大切にして活動していく必要があります。そして我々が所属している青年会議所という組織が

どのような組織であり、時代に合わせてどのような使命が受け継がれてきたのか、使命さえ見失うことがなければ、事業の形態が如何に変わろうとも我々が行う運動の本質は変わることはありません。創業 100 年を超える企業が数多く日本に存在することは世界の中でも特筆すべきものであります。その秘訣は時流に合わせて自らの使命を考え、自らの業態を変えてきたことにあると聞きます。

我々の組織はこれからも長岡に求められる組織を目指します。そのために我々自身がどのような組織であるのか、どのような事業を行い、それが社会にどのような影響を与えているのか、我々に変えるべきことがあれば変えることを恐れずに、我々に課せられた使命とは何か改めて考えます。

長岡空襲

長岡の歴史を語る上で 1945 年 8 月 1 日の長岡空襲は欠かすことができない史実です。長岡は県内唯一の空襲を受けた都市であり、長岡が歩んできた歴史の上で住み暮らすものとして、無念にも亡くなられた多くの御霊への慰霊の心を我々は今もこれからも胸に刻み続けていくことが必要です。そして二度と悲惨な出来事が繰り返されない社会の実現に向けて、歩み続けていくべきであります。この社会の実現に向けては地域を問わず新潟県内においても、世界においても我々が果たすべき役割は大きなものであります。戦後 70 年を過ぎ、当時を生きた方々の言葉を直接聞く機会は減ってきていますが、我々はこの悲惨な史実を伝え続け、世界をより良い方向に変えていく活動を行う必要があります。

今の世界は決して一人で何かを成し遂げられる社会ではなく、変化を起こしていくためには多くの方との協力関係を築き上げる必要があります。長岡空襲という史実を伝えるうえでも、多くの方に思いを届け、繰り返さないためにできることを自分事として捉えて共感していただき、行動に結びつけていただく必要があります。

平和のありがたさを感じ、次世代に語り継ぎ、恒久平和に向けて世界をより良い方向に変えるための活動に取り組みます。

長岡の活性化

長岡空襲からわずか一年後に開催された長岡復興祭を前身とする長岡まつりは今では長岡地域最大級のまつりとして国内外で広く知られています。近年では長岡まつり大花火大会で広く知られているところではありますが、その起源はあくまで復興祭にあります。

長岡の未来を見据え、活力に溢れる長岡に向けて、長岡空襲で亡くなられた方々への慰霊、復興に尽力された先人たちへの感謝、恒久平和への願いを伝えるとともに、長岡市の交流人口の増加には欠かすことができないものとなった長岡まつりに、我々は市民総参加のまつりを目指して取り組みます。また、我々は長岡まつりへの参画意識を高める取り組みとして、

若者に共感を持って向き合っていただくための働きかけに取り組んできました。地域を盛り上げる起爆剤となる若者にはこれまでと同様に働きかけを行うとともに、若者らしい柔軟な発想を活かしながら、若者自身に成長していただき、自主独立した長岡まつりへの参画ができるように運動を進めます。

地方創生

2014 年に地方創生に関する一連の政策が発表されてから数年が経過しています。長岡市でも 2015 年に長岡版総合戦略を策定し、実行しているところであります。我々は行政や他団体の方々とも連携を図りながら、長岡地域の活性化のために、交流人口あるいは定住人口の増加に取り組みます。

日本各地で、観光などによって一時的に滞在する人口の増加に向け、海外からのインバウンド獲得など交流人口増加に対する戦略、就職や住まい探しへの支援や CCRC など各種の移住政策に代表される定住人口増加に向けた戦略が展開されております。我々は、長岡の地方創生に向けて必要な施策を我々自身の視点で考えるとともに、客観的な指標に基づきながら、長岡を地域外の人から見たときに観光に訪れてみたい、住んでみたいと思っていただけるように、実際の生の意見や視点を取り入れて考え、実行してまいります。長岡には豊かな自然や長岡まつりをはじめとしたさまざまな観光資源に加えて、絶えず輩出してきた人材、住環境や交通機関の整備など生活に利便性をもたらす社会資本、そして長岡に住んでいること自体を誇りに思える多くの魅力があります。柔軟な発想と行動力を活かし、交流人口と定住人口の増加を成し遂げていくのは我々の世代の責任であるという認識を持ち、魅力と活力に溢れた長岡の地方創生に取り組みます。

広域的、長期的な地域の発展のために

2005 年以来、周辺の市町村と合併し誕生した新長岡市は 2016 年に第一次合併から 10 年を迎えました。単に同じ長岡市となっただけでなく、合併した地域ではその特色を活かして独自に活発な活動を行っており、これらの活動はその地域の活性化の原動力としても長岡市全体の活性化にとっても貴重なものであります。

青年会議所の利点を一つあげるとすれば、それは県内に国内に、そして世界中に広がるネットワークを持っていることがあります。このネットワークを活用すれば、地域の活動をより広範囲に発信でき、そして長岡の地域間においても、また各地青年会議所の単位を超えた範囲においても、活性化に向けた広域的な連携を果たすことができると考えます。この連携においては、誰かが勝てば誰かが負けるような関係ではなく、広域に渡って関係するお互いが利点を生み出せるような視点を持って取り組みます。

地域の発展には地域における一つひとつの今の活動も必要ですが、同時に長期的な戦略

を持つことが必要です。我々が行う一つひとつの活動においても、長期的な視点を持ち、数年後あるいは数十年、数百年先の未来の姿を思い描き、今必要な活動をつみ重ねていくことが必要です。

今後数年の長岡の姿に思いを巡らせた時、2018 年には長岡藩開府 400 周年を迎えます。そして日本全体を眺めれば 2020 年には東京オリンピックを迎えます。この貴重な機会を活かすために、長岡市や多くの団体で取り組みが進められているところであります。

先人たちが積み重ねてきた歴史の上に今があることを感謝し、今を生きる我々が未来の夢あふれる長岡の創造に向けて、広域的、長期的な視点を持って行政をはじめ、各種団体との連携を図りながら、あるべき未来の姿を検証します。

未来に生きる人のために

私たちは日々暮らしていく中で意識して行っているか行っていないかを問わず、多くの選択を行っています。私は人生とは選択の積み重ねで出来上がると考えています。そして人生の選択には判断基準や影響を与えるきっかけとなった経験や歴史と言った原体験が存在すると考えます。私はなぜ今この人生を歩んでいるのか、改めて自分に問うてみた時、今を選択した原体験が思い浮かんできます。

年齢を問わず人生に強烈な影響を与える原体験があると考えます。長岡に誇りを持ち、あらゆる価値観を認め、地域にそして世界に羽ばたける人間への成長を願い、そのような人々が長岡市に戻り生活し、あるいは市外に住まわれるとしても多くの魅力を長岡内外の各地に伝え、長岡の発展に寄与する機会となるような原体験を創造します。そして、原体験を活かして成長するために必要な資質や環境を高めるための活動に取り組みます。

青年会議所が持つ価値とは

自分という存在を知るためには他者から見た自分を知ることから始まり、そして人と人との関わりの中で自分が磨かれていきます。私は青年会議所の魅力は青年会議所が持つ価値にあると考えています。日本全国そして世界に数多く存在する各地会員会議所の会員同士とは青年会議所の会員であることを伝えるだけで、入会年数の長短や所属する会議所、あるいは人種、国籍を問わず、すぐにでもお互いを信頼しあえる関係性があります。そして先輩諸兄が積み重ねてこられた社会との関係性の中では、青年会議所の会員であるということを明かせば、自分がいかなる存在であっても、立場を超えて様々な方にお会いすることができます。これこそが青年会議所が培ってきた価値であり、何にも変えがたい貴重な財産であります。

多様な活動目的や価値観を持つ人々や団体との関わり合いの機会もまた、自分自身あるいは自らの組織を知るための、そしてまた貴重な成長の機会となります。この機会の一つ一

つを我々は大切にしなくてはなりません。
　青年会議所会員同士あるいは多くの人々と交流や連携を通して、我々自身の活動を改めて見返すとともに伝え、多くの方からより多くの共感を得られるように我々の組織自身が持つ価値を磨き上げます。

必要とされる組織を目指して

　我々は地域に根差し活動しています。この地域で活動を進めるにあたっては地域社会から必要とされ、地域からの信頼に足る組織であり続ける必要があります。我々は活動の源泉となる時間や会費を自らの意思で差し出し、あるいは外部から協賛金や補助金を活用しながら、地域の発展のために日々議論を重ね、実行しています。対外的な信頼に応えられる組織であるためには、法令や規則などを遵守するとともに、外部からの頂戴する資金も含めて、我々自身が差し出す時間や会費といった源泉が効果的に運用されているか、我々自身の目で厳格に見つめる必要があります。
　組織として必要なことを実直に行っていくとともに、我々の活動を改めて見つめ直して必要な組織運営手法を取り入れ、地域社会からの信頼に足る、より強固な組織基盤を確立します。

結びに

　長岡青年会議所の現役会員へ。

　過去の選択の繰り返しで今があります。そして今は既に過去となり、これから歩む先には未来のみが待っています。
　世界は一人で変えることはできませんが、しかし一人の決断がなければ変わることは決してありません。未来を考え、自ら行動することは我々の責務であります。
　変えるということは良い方向にも悪い方向にも変えることができます。しかし使命を知り、行動すれば、決して進む先を誤ることはありません。

　今改めて問います。我々は何をしなければならないのか。
　　我々の使命を知ろう。
　　故郷長岡のために自ら最前線に立とう。
　　そして我々の手で故郷長岡に新たな価値を生み出そう。